

美馬市立 木屋平小学校 「学力向上実行プラン」

- 基礎的基本的な学力の定着を図り、自主主体的に学習に取り組む児童を育成する。
- 学ぶ喜びや学ぶ楽しさを感じる「こやだいラーニング」の確立(少人数学級指導)

学力向上推進員 阿部幸美	委員 校長 教頭 教諭 養護教諭	総括 総括補佐 教務主任	研修主任 人権主任
-----------------	---------------------	-----------------	-----------

校長



(1)基礎的・基本的な知識・技能の習得

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ ・計算の基礎学力は定着している。既習内容のプリントや体験学習をすることで、知識の定着も図りつつある。	①漢字と計算の基礎的基本的な知識技能を確実に身につけ、それを生活に活用しようとしている。 ②文章や文章問題を読み、内容を正確に読み取ることができている。	①既習の漢字計算テストで全員が6割以上の正答率を達成できるようにする。 ②国語算数の文章問題で6割以上の正答率を達成できるようにする。			
課題 ・漢字の書き取りや活用に課題がある。読解力にも課題があり、問題を読み取る力や文章を書く力も弱い。	①漢字計算学習のプリント、テストを工夫する。朝のチャレンジタイムを活用し、継続して実施する。学習時間を確保する。②児童に辞典の活用を推進する。読解力をつけるプリントを利用する。③地域の良さを取り入れた体験学習をし社会に対する知識や理解を深める。	①朝のチャレンジタイムで漢字計算読解力の復習を週3回実施する。 ②国語辞典漢字辞典などを児童が週3回以上は利用するよう時間を設定する。 ③学期に3回以上体験学習を取り入れる。		評価	次年度における改善事項

(2)知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ ・全校児童の前で発表する機会が多く、相手を意識して話すようになってきた。あいさつやお礼の言葉を手紙で伝えることができるようになった。	①自分の考えを筋道を立てて、分かりやすく話したり書いたりする。 ②進んで読書をしたり、図鑑で調べたり、新聞を読んだりして、図書を生活に生かすことができている。	①作文や発表を3段階で評価し、全員が2以上の評価が得られるようにする。 ②1年間の読書量が一人低学年80冊以上高学年40冊以上読むようにする。			
課題 ・伝えたいことを思いのまま話し、筋道を立てて分かりやすく話すこと、丁寧な言葉を使うことに課題がある。また、自分の意見に自信がなく話せない児童もいる。読書量が少なく、集中が続かない。	①話し方、聞き方、書き方、伝え方の見本や手立てを児童が活用できるように教材を準備し、児童の身近な場所に置く。②お話を定期的に関いたり、読書賞を取り入れたりして、読書への意欲付けをする。常に図書とふれあうようにする。	①全校集会で児童が意見を発表できる場を毎月1回以上設定する。行事の感想、新聞などを掲示しさまざまな表現にふれさせる。 ②毎月2回以上お話会や読書会を開く。		評価	次年度における改善事項

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ ・個々に合わせて課題の内容や量を調節したことで、自分の力で学習が進められるようになってきた。	①学習課題に対して、一人一人が自分なりのめあてをもって意欲的に取り組むことができる。 ②授業の準備物や宿題、提出物の確認を自分の力でできること。	①学習アンケートを行い、意欲的によくがんばったと答える児童の割合を80%以上に引き上げる。 ②アンケートを行い、宿題などの確認を自分の力でしたと答える児童の割合を80%に引き上げる。			
課題 ・家庭学習の習慣がまだ定着していない児童もいる。主体的に学習に取り組む意欲が弱い。	①児童が自分のめあてを立て、ふり返りシートを用いて自己評価できるようにする。 ②学年に応じた家庭学習の仕方の共通理解を図り、児童や家庭に知らせる。	①自分で学習方法を選ぶ課題を多く取り入れたり、学習の流れがよく分かるように工夫する。②家庭学習の手引きや学校通信を使って保護者の理解や協力を得る。		評価	次年度における改善事項

平成27年度 学力向上ロードマップ

